

11年度研修員一覧

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究目的	
法	前期1名後期1名の2名以内	教授	今西 康人	11.4.1～ 11.9.30	自宅及び大学	1. これまで収集・通読した文献を整理し、「契約締結上の過失」に関する最近の状況を研究し、まとめる。特に、予約、不法行為（不当勧誘）等につき、一層その関連性を熟考し、テーマ周辺領域を充実させる。	
						2. 保証契約の判例整理とドイツ法の最近の議論の整理を行う。	
						3. 余裕があれば、外国法の文献収集を一層充実させる。	
文	前期2名後期1名または、前期1名後期2名の3名以内	教授	浦西 和彦	11.4.1～ 12.3.31	関西大学図書館	明治・大正・昭和期に刊行された文芸書・雑誌・新聞を調査し、その資料的価値について研究する。	
					日本近代文学館		
		教授	武市 修	11.10.1～ 12.3.31	パッサウ大学(ドイツ)		中高ドイツ語、古高ドイツ語の表現の特徴を押韻技法の観点から明らかにする。
					ミュンヘン大学(ドイツ)		
経	前期1名後期1名の2名以内	教授	森岡 孝二	11.4.1～ 11.9.30	自宅	これまでに行ってきた現代資本主義分析の理論と方法の研究を、マルクス経済学における企業像の批判を軸に拡充・総括して一書にまとめるための基礎的作業をすすめる。それとともに、アメリカ合衆国における企業改革をめぐる動向を実地に調査し、株式会社のみならずNPOに関する文献情報を収集する。	
					関西大学		
		教授	良永 康平	11.10.1～ 12.3.31	個人研究室		従来、ドイツやEUの産業連関表の解明、それをを用いたEU諸国経済の分析、日本との比較などを中心として研究を進めてきた。研修期間中の研究予定としては、特にドイツを中心として、従来の研究を新しいデータで改訂するとともに、新連邦諸州（旧東ドイツ）データを追加し、環境勘定・環境産業連関表等の新しい動向も補充したいと考えている。
					法政大学・日本統計研究所（11月2週間程度）		
商	前期1名後期1名の2名以内	教授	羽鳥 敬彦	11.4.1～ 11.9.30	自宅	1. 日本の近代化と国際経済	
					個人研究室	2. 国際経済秩序の転変	
					関西大学図書館	1と2について論文を作成	
		教授	加藤 義忠	11.10.1～ 12.3.31	自宅	1. 高度成長下の流通機構	
					個人研究室	2. 低成長化の流通機構	
						1と2について研究論文を作成	

社	前期1名後期1名の2名以内	教授	常木 暎生	11.4.1～ 11.9.30	<p>東京大学社会情報研究所</p> <p>(財)国際通信経済研究所</p>	<p>1. マス・コミュニケーション、メディアエイテッド・コミュニケーション、パーソナル・コミュニケーションを統合した個人レベルのコミュニケーション行動のモデルを構築する。</p> <p>2. これらに関する文献、資料を収集し検討する。</p> <p>3. 研究枠組に従って、それらの成果をまとめる。</p> <p>4. 著書という形で成果を公表する。</p>
		教授	清水 和秋	11.10.1～ 12.3.31	<p>主として、個人研究室、関西大学図書館、自宅</p> <p>必要に応じて、国内外の研究機関 文部省大学入試センター、統計数理研究所、大阪大学人間科学部</p>	<p>1. 共分散構造分析（線形方程式モデル）における最近の研究のレビュー。（推定理論と応用への適用可能性、適合度の評価などを中心として）</p> <p>2. 尺度の因子構造の検証方法論と実証的研究のレビュー。（多くの心理テストの因子構造に関しては、混乱した状況にある。方法論を適用する観点から問題点を整理し、解決策を提示したい。）</p> <p>3. 因子分析モデルにおける不変性に関する議論のまとめ。（不変性に関する各種条件とそれらの解析モデルの検討など）</p> <p>4. 多集団問題の大規模シミュレーションによるモデル適合度の評価。</p> <p>5. 実際のデータ（収集済みあるいは公刊されている）への方法論の適用。</p> <p>研究交流をおこないながら、以上をいくつかの論文として執筆する。</p>
総情	前期1名後期1名の2名以内		被選考者なし			
工	前期2名後期1名または、前期1名後期2名の3名以内		被選考者なし			

(注) 研究者の氏名及び資格は、いずれも平成11年4月1日現在のものです。